

租税教育実践レポート

身近な税金とその使い道


登米市立南方中学校教諭 3学年 吉田 正一郎

実施年月日：令和4年1月18日 71名

1 実践計画・指導のねらい

本単元「政府の役割と国民の福祉」では、福祉の向上のために国や地方公共団体が果たす役割について、財政や租税の意義、国民の納税の義務などについて考え、経済についての方や考え方の基礎を養うことを主なねらいとしている。国民が納めた税が国や地域を支えるために生かされるものであることを、身近な事例を取り上げながら気づかせ、主権者として将来、自らが主体的に果たしていくべき役割を自覚させたい。

2 単元構成・実際の指導状況（単元を通した全体の主な学習計画及び教師の指導）

時間	学習内容	主な発問 (○), こどもたちの反応 (●), 使用教材等 (□)
事前 学習	税の作文 (選択課題) 事前指導	○ <u>税について調べてみよう。</u> ● 私たちの生活に役立っており、ないと困るもの。 ● 税にはさまざまな種類がある。 □ 副教材「国税庁 税の学習コーナー」
関連 単元	<3節：地方自治と私たち> 地方公共団体の課題 ・地方財政の仕組み ・地方財政の健全化 ・人口減少と地方創生	○ <u>地方公共団体にはどのような課題があるのだろうか。</u> ● 自主財源である地方税の割合が思ったより低い。 ○ 地方創生のために登米市の良さをもっとアピールするべき。 □ 「令和3年度 登米市の予算とまちづくり」 「宮城県 暮らしと県税」
1	<4節：財政と国民の福祉> 私たちの生活と財政 ・財政の仕組み ・さまざまな税金 ・税金の公平性	○ <u>私たちが納める税金はどのように使われているのだろうか。</u> ● 日本は、予算に占める社会保障費の割合が高い。 ● 学校や道路、警察や消防など身近なところに税が使われている。 ○ 憲法に「納税の義務」があるのはなぜだろう。 ● 国民が納める税が国を支えている。助け合いの精神。 □ 「令和3年度版国税庁租税教育教材スライド」 「1億円レプリカ」(左沼税務署より借用) 
2	財政の役割と課題 ・市場経済と政府 ・財政政策	○ <u>財政の果たす役割と課題について考えよう。</u> ○ 社会資本や公共サービスを政府が担っているのはなぜか。 ● 利潤が得られないことを民間企業が担うのは困難。 ● 政府が税を活用して社会資本の整備や公共サービスを行う。 □ 「財務省 日本の財務関係資料」
3	社会保障の仕組み ・社会保障の役割 ・日本の社会保障の四つの柱	○ <u>保険証ってなんだろう。</u> ● 保険証がないと、実はそんなにお金がかかっているのか。 □ 社会科資料集
4	少子高齢化と財政 ・少子高齢化と社会保障 ・福祉社会の実現に向けて	○ <u>これからの日本の社会保障はどうあるべきなのだろうか。</u> ○ 少子高齢化の中で、どのように社会保障を維持していったらよいか。 ● 社会保障の水準を維持するためには、負担増も仕方ないのでは。 ● 負担が増えすぎるのなら、社会保障を絞り込むのもやむを得ない。 □ 「財務省 これからの日本のために財政を考える」

【指導のポイント】<1時間目>

国税庁の資料を使い、税についての基礎的な内容を調べる時間とした。夏休みの課題として各自が学習を進めた。

【指導のポイント】<2時間目>

資料の読み取りから、県や市の歳入に依存財源が多いことに気づいた。「おかえりモネ」の効果で登米市へのふるさと納税が増えたことも紹介した。

【指導のポイント】<3時間目>

既習事項と関連させ、納めた税がどのように使われているか考えさせた。1億円レプリカを実際に触らせることで、税への関心を高めることができ、スライドで分かりやすく税について学ぶことができた。

【指導のポイント】<4時間目>

私たちの身の回りでの税の活用場面を探し、社会資本整備や公共サービスにおける税の大切さを考えさせた。

【指導のポイント】<5時間目>

国民皆保険・国民皆年金の制度には、税の負担が大切であることを説明した。

【指導のポイント】<6時間目>

これからの社会保障の在り方を考えさせ、理由も含めて記述させた。税や保険料の負担は増えるが、現在の社会保障の水準は維持すべきという生徒が多かった。

3 実践の成果 (◎) と課題 (◆) (租税教育を実施後、教諭自身の感想や児童・生徒の反応、他の教諭に対して、今後参考としてほしい事項など)

- ◎ 社会科の夏休み選択課題として、3年生が「税の作文」に取り組んでいる。資料を配付して事前指導を行い、自分で資料にアクセスして学習することで、税に対する興味や疑問などの課題を解決する機会になっている。
- ◎ 今回、初めて1億円のレプリカを左沼税務署から借用して活用した。実際の重さを体験することで生徒の興味を喚起し、授業の雰囲気作りにもなった。
- ◎ 既習事項である国や都道府県、市町村の役割と税の学習を関連させて学ぶことで、自分の身の回りのものやサービスの多くが税によって担われていると感じた生徒が多かった。憲法にある「納税の義務」についても、自分たちが日本の国を支えるためのものであるという意識をもたせることができた。
- ◎ 生徒たちは教育などの公共サービスや医療・社会保障、社会資本の整備などへの負担はすべきと考えており、その思いを裏切らないようにしたい。
- ◆ 単元の配列上、教科書で税について細かく学ぶのは1月頃である。夏に行う税の作文や租税教室の実施時期との関連を考えておく必要がある。